

科目名	研究指導（修論指導）1		
開講学期	2年次春学期		
教員氏名（カナ）	全教員 田中辰雄、浮田善文、友岡賛、原郁代、平井友行、 松嶋智子、諸上詩帆、柳田義継、 渋瀬雅彦、永野智久		
単位数	2		
授業実施方法	対面講義＋オンライン		
教育の実務経験の有無	無	ノートPCの利用	毎回の授業で使用
実務経験	該当なし		
キーワード	商学、マーケティング、データサイエンス	アクティブラーニングの実施	有
授業の目的と概要	本講義では修士論文の指導を行う。春学期は修士論文のテーマ設定、先行論文の調査、分析モデル作成、データ収集開始までを行う。修士論文素案を確定させ、作業の道筋をつけることが目的である。修士論文素案とは、分析モデル、データ収集について具体的な計画が書いてあるもので、箇条書きで要点が書かれた修士論文のひな形である。できれば部分的なデータを使った分析まで達することが望ましい。 ①.田中辰雄（統計分析の指導を担当） ②.浮田善文（AIと情報処理を担当） 3.友岡 賛（会計理論の講義を担当） 4.原 郁代（会計実務の指導を担当） 5.平井友行（経営戦略論を担当） 6.松嶋智子（情報セキュリティを担当） 7.諸上詩帆（企業組織論を担当） 8.柳田義継（プログラミングをマーケティングを担当） 10.渋瀬雅彦（経営とマーケティングを担当） 11.永野智久（スポーツマネジメントを担当）		
到達目標	1	先行研究を読み修士論文のテーマを決定する	
	A+	先行研究を予定数以上に読み修士論文のテーマを決定する	
	A	先行研究を読み修士論文のテーマを決定する	
	B	先行研究を読み修士論文のテーマがある程度さだまる	
	C	先行研究を読み修士論文のテーマの方向性だけが決まる	
	F	先行研究が読めず、修士論文のテーマが決まらない	
	2	修士論文の分析モデルを完成させる	
	A+	修士論文の分析モデルが完成し、応用的な展開も用意する	
	A	修士論文の分析モデルが完成する	
	B	修士論文の分析モデルがほぼ完成する	
	C	修士論文の分析モデルの方向性が決まる	
	F	修士論文の分析モデルの方向性が決まらない	
	3	修士論文のデータ収集を行う	
	A+	修士論文のデータ収集ができて、分析に着手した	
	A	修士論文のデータ収集中である	
	B	修士論文のデータ収集の見込みができた	
	C	修士論文のデータ収集方法を模索中である	
	F	修士論文のデータ収集方法の検討がつかない	
	4		
	A+		
	A		
	B		
	C		

	F			
	5			
	A+			
	A			
	B			
	C			
	F			
履修上の注意				
教科書・教材				
基本方針	学生の関心に沿って教員から提示する			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	基礎となる論文を指定する			
推薦				
参考文献				
ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応				
ディプロマポリシー（大分類）				対応
D1	社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を見出す能力			
D2	課題解決に役立つデータサイエンスに関する汎用的な知識とスキル			
D3	（1）の能力を起点に（2）を重ね合わせ、社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を具体的に解決し得る方策を導き出す能力・スキル			◎
D4	（3）で得られたソリューション（解決策）を社会等に訴求すべく具体的に働きかけるコミュニケーション力と行動力を備えたスキル			◎
D5	データ社会にあって（1）～（4）の一連のプロセスで発生し得る倫理上の課題を適切に認識する能力を備えたスキル			○
成績評価方法		修士論文の素案の作成（100%）		
試験・レポート等に対するフィードバック				
授業時間外の事前事後学修				
	内容	学習時間		
事前学習	指導教員の指示をうけて論文の購読、モデル作成、データ探索を行う	5 h		
事後学修	指導教員の指示をうけて論文の購読、モデル作成、データ探索を行う	5 h		
授業計画				
1	学生の問題関心の確認。研究計画の策定。担当教員との打ち合わせ			
2	先行論文サーベイ 1			
3	先行論文サーベイ 2			
4	先行論文サーベイ 3			
5	先行論文サーベイ 4			
6	分析モデルの素案作成			
7	データの探索 1			
8	データの探索 2			
9	分析モデルの見直し			
10	データの探索 3			
11	データの探索 4			
12	修士論文素案の作成・決定			
13	補足調査 1：先行調査サーベイ、モデル見直し、データ補完			
14	補足調査 2：先行調査サーベイ、モデル見直し、データ補完			
SDGsとの関連性				
8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基礎をつくろう				